

平成30年度 猪名川町・中学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 調査内容

調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

猪名川町内の公立中学校2年生の生徒
調査対象教科は、国語・数学・英語

■ 調査日

平成30年4月17日（火）

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

		猪名川町全体 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	目標値 (%)	全国平均 との差	受験者数
中学校 2年生	国語	67.5	64.2	63.6	3.3	339
	数学	63.4	58.1	58.1	5.3	339
	英語B	60.5	51.2	55.1	9.3	339

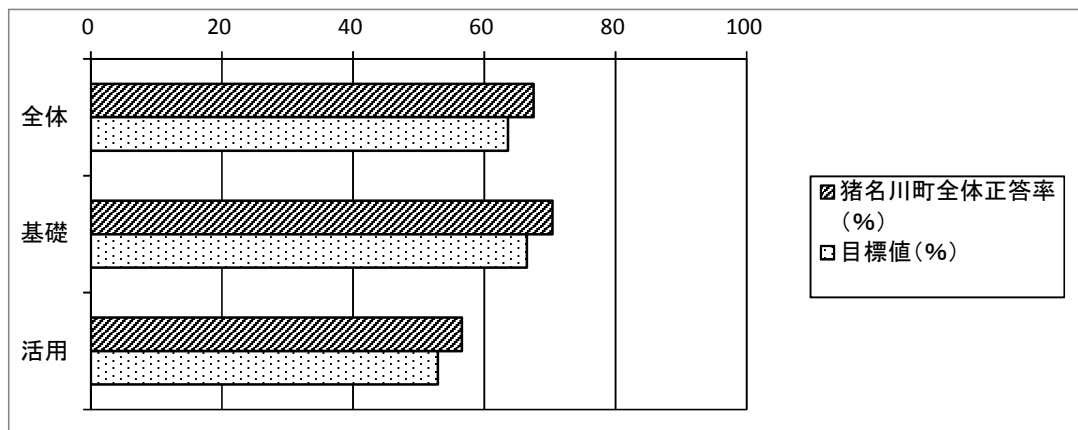
※「目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合。出題の形式や解答の形式により、難易度を算出する。

町全体の正答率は、国語が3.9ポイント、数学が5.3ポイント、英語が5.4ポイント目標値を上回り良好な結果である。

■ 中学校2年生 国語

(1) 基礎・活用正答率

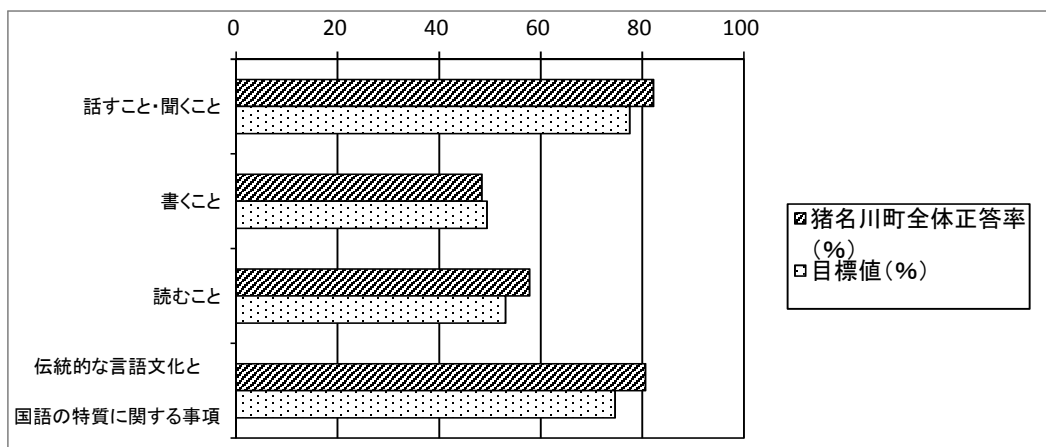
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	67.5	70.4	56.6
目標値 (%)	63.6	66.5	52.9
目標値との差	3.9	3.9	3.7



基礎・活用別に見ると、基礎問題は70.4%と目標値を3.9%上回っている。活用問題については、56.6%と目標値を3.7%上回っており良好な状態である。

(2) 領域別正答率

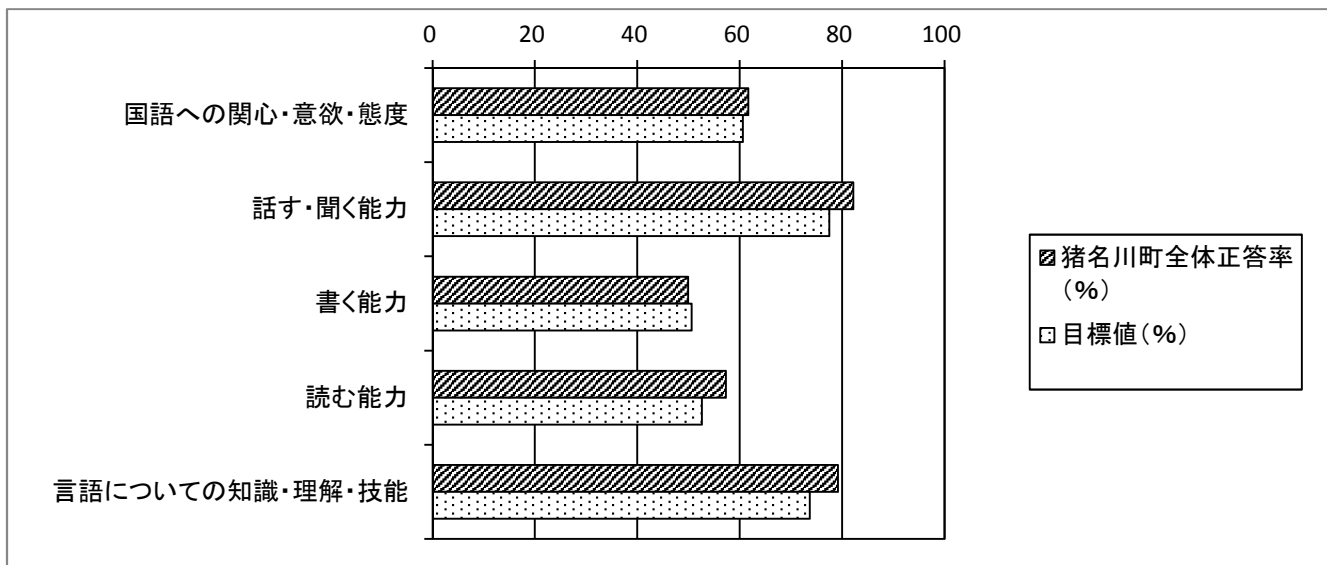
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
猪名川町全体正答率 (%)	82.2	48.4	57.8	80.6
目標値 (%)	77.5	49.4	53.1	74.6
目標値との差	4.7	▲ 1.0	4.7	6.0



域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は目標値を上回り良好である。「書くこと」は昨年度目標値を上回っていたが、今年度は若干下回っている。

(3) 観点別正答率

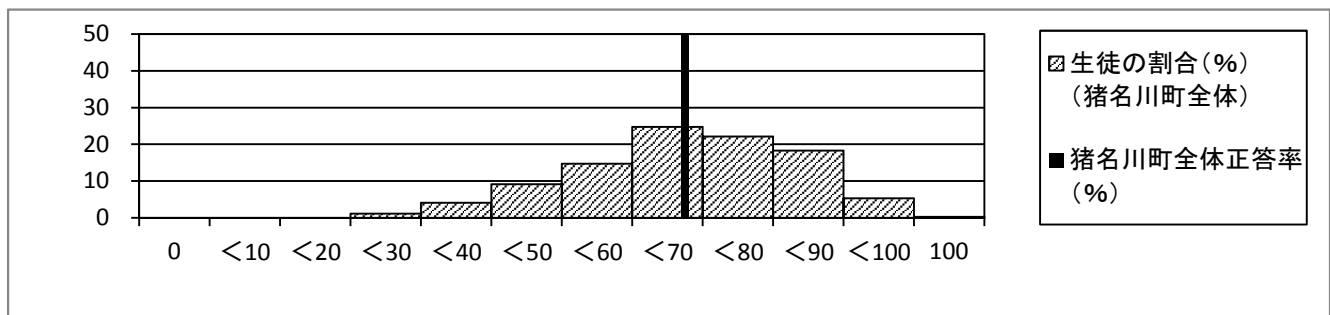
	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
猪名川町全体正答率 (%)	61.7	82.2	49.9	57.3	79.2
目標値 (%)	60.6	77.5	50.6	52.6	73.7
目標値との差	1.1	4.7	▲ 0.7	4.7	5.5



観点別に見ると、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」目標値を上回り良好である。「書く能力」は昨年度目標値を上回っていたが、今年度は目標値を若干下回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.0	0.0	1.2	4.1	9.1	14.7	24.8	22.1	18.3	5.3	0.3



町全体で正答率80%以上の生徒が23.9%と、昨年度の43.0%を大幅に下回っている。一方、正答率50%未満の生徒は14.4%と、昨年度の8.8%とほぼ同等である。

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(3)

【話し合いの内容を聞き取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	64.9	65.0	▲ 0.1	62.1	2.8
出題のねらい	猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。				
対策	本問では、司会者が、話し手の一人の提案の後に質問することで、その提案の理由を明らかにする役割を担っている。授業の中で、話し合いの機会をできるだけ多く設定することにより、司会者の役割について実践できるようにすることが大切である。司会者の役割だけでなく、話し合いや討論に積極的に参加する姿勢も身に付けさせたい。				

大問2(1)②

【漢字を読む】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	58.7	60.0	▲ 1.3	59.2	▲ 0.5
出題のねらい	第1学年までに学習した漢字を読むことができる。				
対策	漢字の学習については、新出漢字を押さえていくだけでも大変である。特に大切なことは、学習したことを活用できるような場を設定していくことである。漢字の小テストだけでなく、生徒どうしが問題を作って出し合ったり、クイズ形式で学習したりするなど、さまざまな学習の工夫が求められる。				

大問5(4)

【文学作品の内容を読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	35.4	40.0	▲ 4.6	34.4	1.0
出題のねらい	文章の表現の特徴をとらえることができる。				
対策	特に文学作品においては、登場人物の心情や場面の状況など、さまざまなものが、文章の表現の特徴に表れる。それらの特徴を捉え、作品の読みを深いものにすることが大切である。表現に着目して読む場合、情景描写を取り上げることが多い。しかし、それだけではなく、登場人物どうしの会話に着目したり、同じ表現でも視点を変えてみたり、といった分析の視点からの読みを行っていくことで、作品の新たな読みを考えていきたい。				

大問7

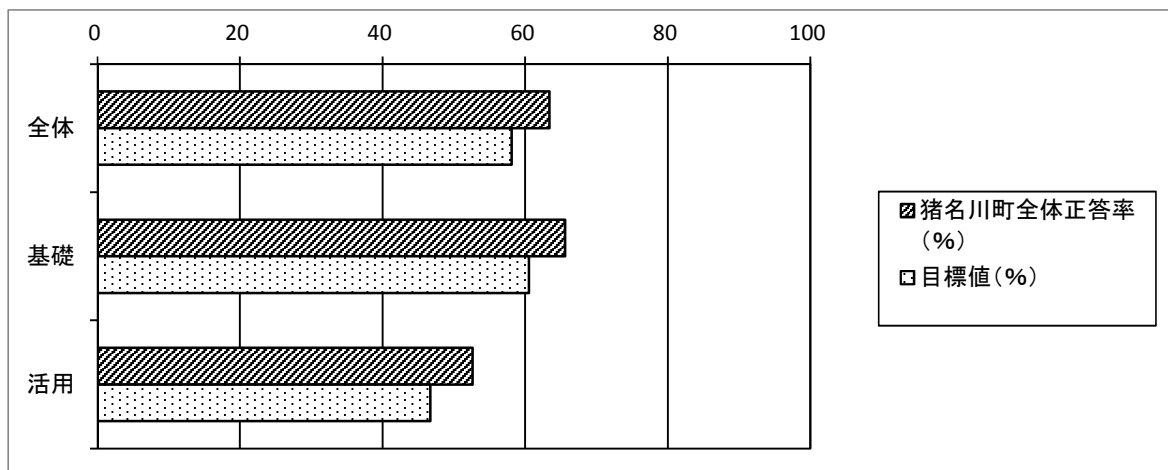
【作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	41.3	50.0	▲ 8.7	40.7	0.6
出題のねらい	3段落構成で文章を書くことができる。				
対策	文章を3段落構成で書くことができるかを見る問題である。本問では、第一段落に「グラフから読み取ったこと」、第二段落に、グラフから読み取ったことについて「自分が考えたこと」、第三段落に、言葉遣いについて「自分が今後気をつけたいこと」を書くことが求められている。3段落構成にはいくつかのパターンがあるので、書く練習を繰り返して、基本的な書き方に習熟させる必要がある。				

■中学校2年生 数学

(1) 基礎・活用正答率

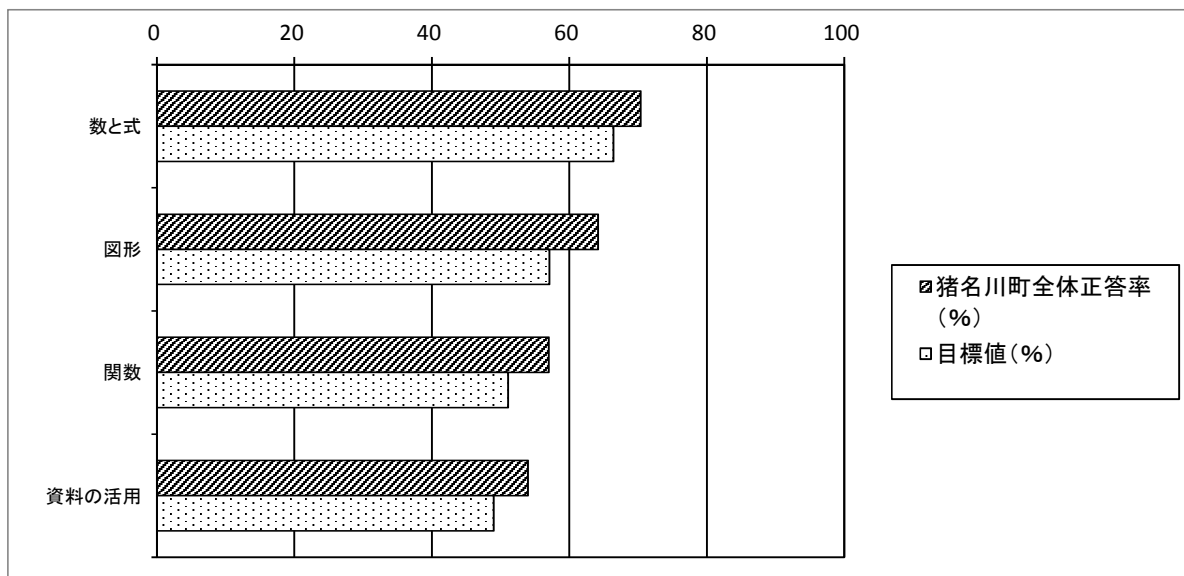
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	63.4	65.6	52.6
目標値 (%)	58.1	60.5	46.7
目標値との差	5.3	5.1	5.9



基礎・活用ともに目標値を上回っており、良好な状態にある。

(2) 領域別正答率

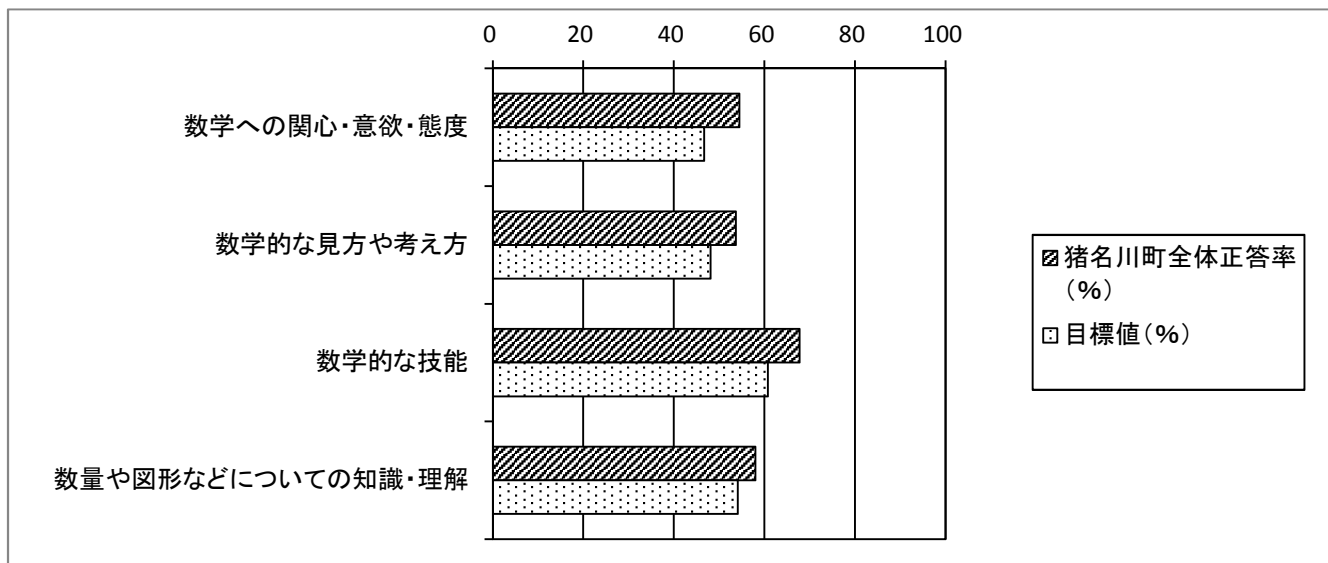
	数と式	図形	関数	資料の活用
猪名川町全体正答率 (%)	70.4	64.2	57.0	54.0
目標値 (%)	66.4	57.1	51.1	49.0
目標値との差	4.0	7.1	5.9	5.0



領域別に見ると昨年同様、全ての領域で目標値を上回っており良好な状態にある。

(3) 観点別正答率

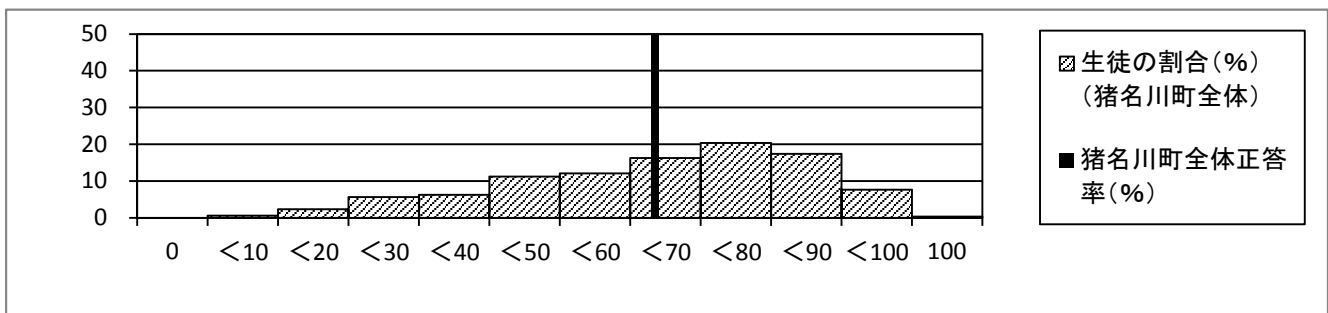
	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
猪名川町全体正答率 (%)	54.5	53.7	67.8	58.0
目標値 (%)	46.7	48.1	60.8	54.1
目標値との差	7.8	5.6	7.0	3.9



観点別に見ると、全ての観点で目標値を上回っており、良好な状態である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.6	2.4	5.6	6.2	11.2	12.1	16.2	20.4	17.4	7.7	0.3



町全体で正答率80%以上の生徒が25.4%と昨年度の30.3%より減少し、正答率50%未満の生徒は26.0%と昨年度25.1%と増加した。上位層が減少し、下位層が増加と少し課題がある。

(5) 課題のある小問についての分析

大問4(1)

【正の数・負の数】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	39.8	50.0	▲ 10.2	45.5	▲ 5.7
出題のねらい	猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。				
対策	誤答の原因としては、整数、分数、小数の大小関係を理解していないこと、負の数の大小関係を理解していないことが考えられる。まず、数直線を使い1、1/10、0.01の位置を確認し、大小関係を確認させる。次に、-1、-1/10、-0.01の位置を確認し、大小関係を確認させる。負の数の範囲では、正の数のときとは逆に、絶対値が大きいくほど小さくなることを視覚的に確かめさせることが大切である。また、不等号を用いた表し方についても確認しておきたい。				

大問8

【比例・反比例】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	37.8	40.0	▲ 2.2	39.2	▲ 1.4
出題のねらい	比例の関係での、x、yの値の変化の関係について理解している。				
対策	誤答の主な原因としては、比例の関係又は比例定数の意味を理解していないことなどが考えられる。 $y=x$ 、 $y=-x$ のxとyの表を生徒に作らせ、xの値を2倍、3倍、4倍……にしたとき、yの値が何倍になるかを調べさせるとよい。その際、表を正しく作成できない生徒もいるので、一つ一つ確認しながら指導することが大切である。				

大問16(1)

【空間図形】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	44.2	50.0	▲ 5.8	48.8	▲ 4.6
出題のねらい	球の表面積を求める式がわかる。				
対策	誤答の原因としては、球の表面積を求める式を忘れてしまったこと、球の体積を求める式と混同していることなどが考えられる。半径rの球の表面積Sを求める式は $S=4\pi r^2$ 、体積Vを求める式は $V=4/3 \times \pi r^3$ で表されることを確認する。また、球の体積については、水を使った実験を実際に行い、その球がちょうど入る円柱の体積の2/3であることを理解させるとよい。表面積については、実験してみせることができず、教え込みになってしまうが、その球がちょうど入る円柱の側面積に等しくなることを指導する。				

大問17(3)

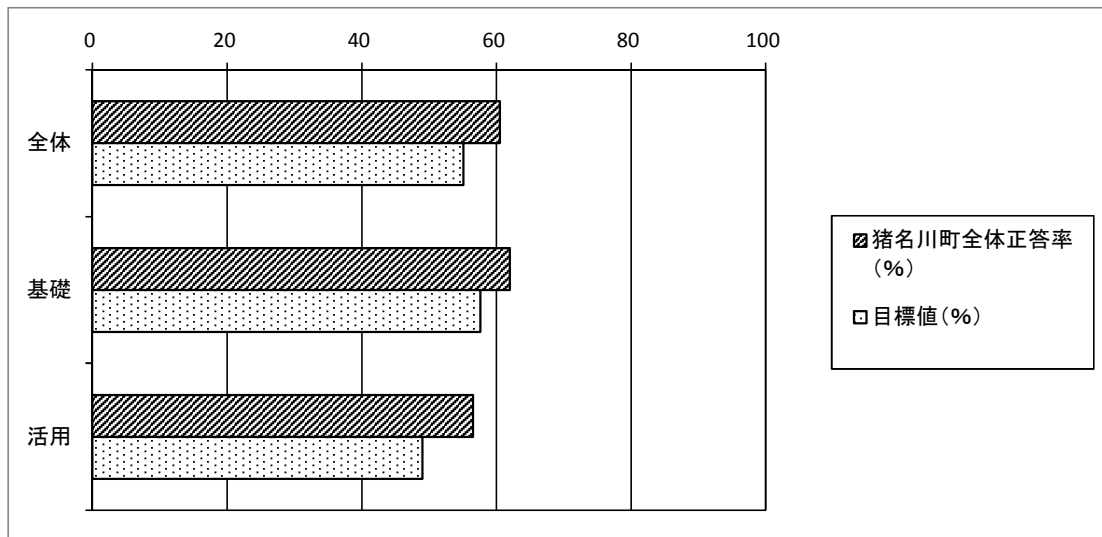
【資料の散らばりと代表値】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	52.2	50.0	2.2	50.4	1.8
出題のねらい	有効数字の意味と近似値の表し方を理解している。				
対策	有効数字の意味と表し方について、丁寧に指導する必要がある。本問の場合、有効数字が3けた(1, 4, 6)であることから、測定値1460mlは10m未満を四捨五入して得た値であることと、なぜ(整数部分が1けたの数)×(10の累乗)の形で表すのかについて確認させたい。また、有効数字だけを取り上げるのではなく、誤差や近似値等と合わせて指導することが大切である。				

■中学校2年生 英語B

(1) 基礎・活用正答率

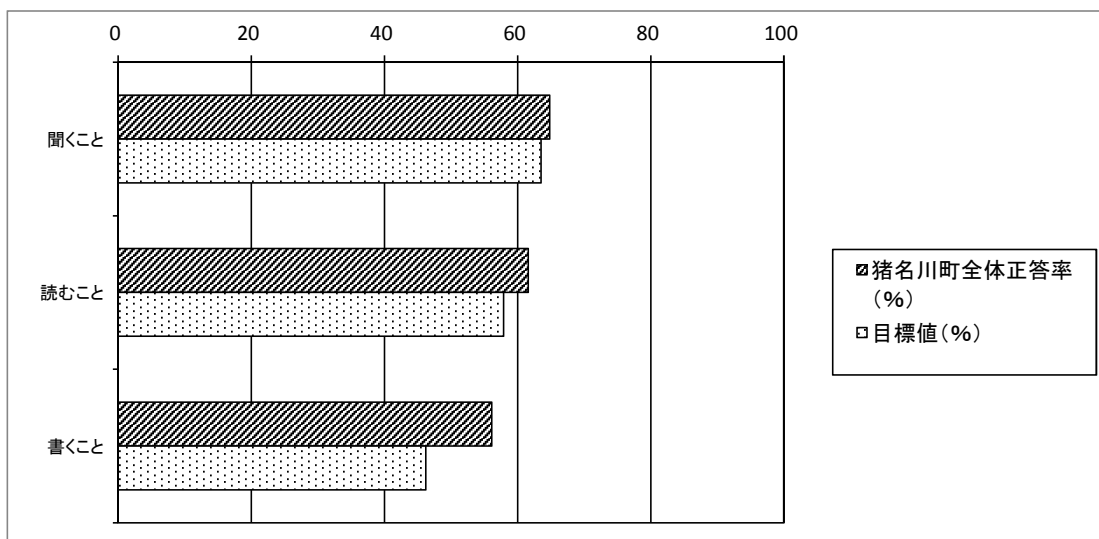
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	60.5	62.0	56.5
目標値 (%)	55.1	57.6	49.0
目標値との差	5.4	4.4	7.5



基礎・活用ともに目標値を上回っており、良好な状態である。

(2) 領域別正答率

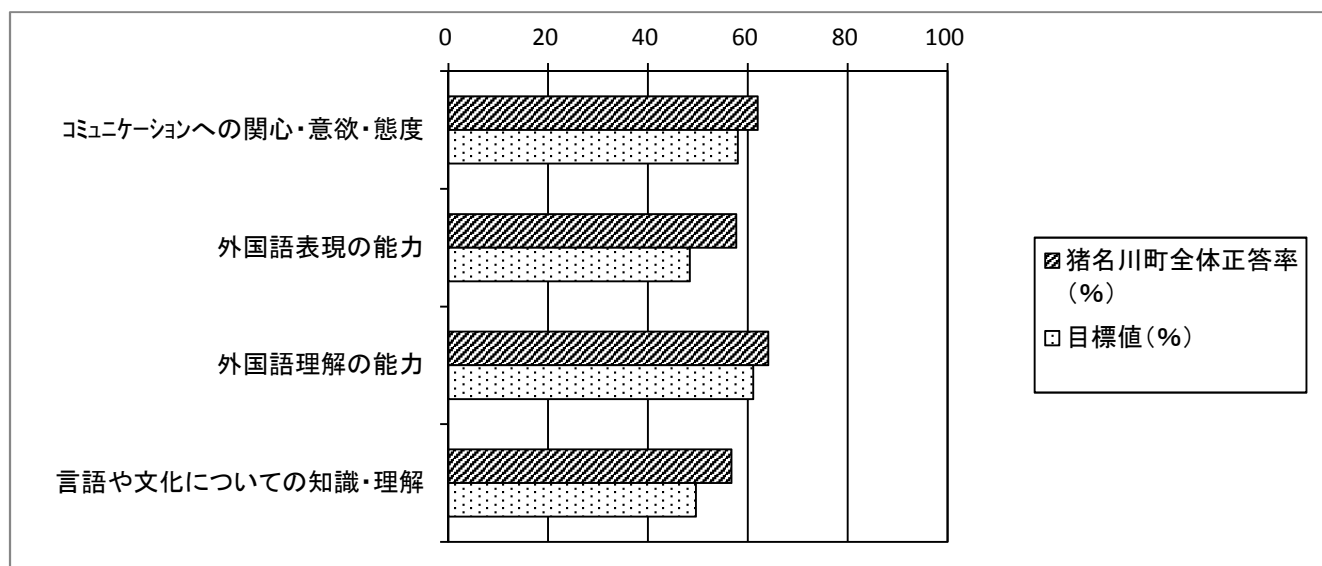
	聞くこと	読むこと	書くこと
猪名川町全体正答率 (%)	64.8	61.6	56.1
目標値 (%)	63.5	57.9	46.2
目標値との差	1.3	3.7	9.9



領域別に見ると、全ての領域で目標値を上回っており、良好な状態である。

(3) 観点別正答率

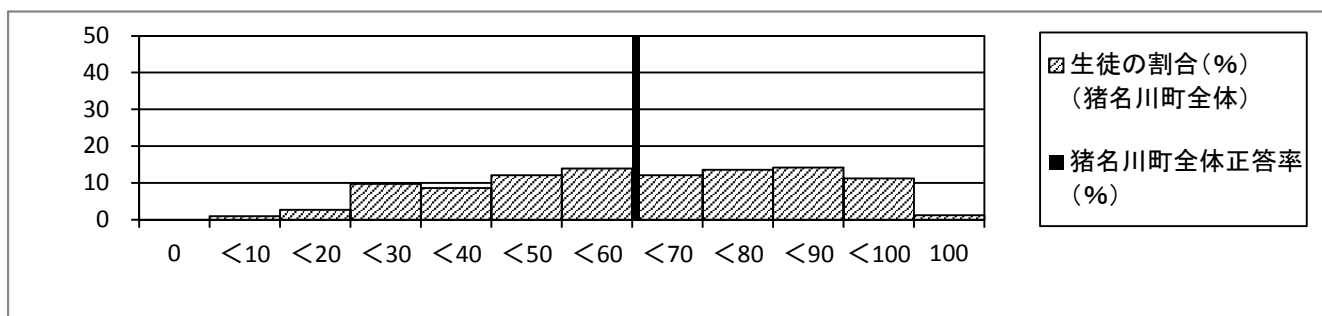
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
猪名川町全体正答率 (%)	62.0	57.7	64.1	56.7
目標値 (%)	58.0	48.4	61.1	49.6
目標値との差	4.0	9.3	3.0	7.1



前年度同様、基礎・活用ともに目標値を上回っており、良好な状態である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.9	2.7	9.7	8.6	12.1	13.9	12.1	13.6	14.2	11.2	1.2



町全体で正答率80%以上の生徒が26.6%と昨年度の31.3%と同等であった。一方、正答率50%未満の生徒は33.9%と昨年度21.6%より増加している。下位層が増加し課題である。

(5) 課題のある小問についての分析

大問3(1)

【リスニング（内容理解）】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	38.6	55.0	▲ 16.4	44.0	▲ 5.4
出題のねらい	猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。				
対策	スクリプトの第2パラグラフに出てくる“Shinji often talks to me about his school.”という一文を聞き取ることができれば、正答できる問題である。対策としては、日頃リスニング学習を行う際に、聞きっぱなしにするのではなく、スクリプトを見ながら自分が聞けなかった箇所の意味を確認し、音読するよう指導するなどのフォローを徹底することが大切である。				

大問5(2)④

【語彙の知識・理解】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	36.4	45.0	▲ 8.6	35.9	0.5
出題のねらい	単語を正しく書くことができる。(誕生日)				
対策	昨今コミュニケーション能力の育成を重視する傾向があり、英語を書く活動の指導に割く時間が少なくなってきた。そのため、単語を書くことを苦手とする生徒が多いのは事実である。授業においては、単語の小テストなどを定期的に行い、書くことに対して抵抗感をもたせないようにする指導が必要である。なお、単語テストでは、復習として過去に学習したものを繰り返し出題するなど、反復学習させることが大切である。				

大問7(1)

【長文の読み取り】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	61.4	70.0	▲ 8.6	60.4	1.0
出題のねらい	代名詞theyの内容を把握することができる。				
対策	本問のような、人称代名詞の内容を把握する問題に対応する力を身に付けさせるためには、教科書本文の学習において、人称代名詞が出てくるたびに、それが何を指しているのか、生徒に聞いてみるといった指導が大切である。本文の説明のときに、「このtheyはどの人とどの人を指していますか」「このsheは誰のことですか」というような質問を生徒にすることで、生徒は常に人称代名詞を意識するようになる。				

大問9(2)

【場面に応じて書く英作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	24.6	30.0	▲ 5.4	17.1	7.5
出題のねらい	英語で質問する文を書くことができる。(whatと現在進行形を使って、していることをたずねる)				
対策	“She is studying.”の一文から推測して、「何をしているのか」を尋ねるためにwhatという疑問詞を使うことに気付くこと、疑問詞whatの後は疑問文の形となることを文法的に把握していることなどが重要である。また、対話文では、対話全体の流れをつかむことが大切である。授業においては、オリジナルのスキットを作らせることで対話の流れを考えさせたり、教科書にある対話の一部を空欄にして、答えを想像させたりするとよい。				